エヌ・アイ・イー
わかやまNIEだより

Newspaper in Education 第19号 2019.3 和歌山県NIE推進協議会

事務局:〒646-8660 和歌山県田辺市秋津町100 紀伊民報社内 TEL.0739-24-7171 FAX.0739-25-3094 E-MAIL:nie@kiiminpo.jp

これからの和歌山を担う子どもたちを育てる
― 地域社会にかかわる市民性の育成 ―

和歌山県NIE推進協議会会長
和歌山大学教育学部教授
船越 勝

今年度、和歌山県でもさらにＮＩＥ（Newspaper in Education、「エヌ・アイ・イー」と読む）の取り組みを進めていくために、小学校と中高に分けて、セミナーを開きました。その詳細は、この「わかやまＮＩＥだより」のなかに報告が掲載されていますから、そちらをご覧いただければと思うのですが、ＮＩＥの取り組みには非常に豊かな教育的価値が含まれていることがわかっていただけると思います。

では、ＮＩＥにどのような教育的価値があるかというと、それは大きく分けて、３つあると考えています。第一は、教科のねらいに沿って、新聞記事を活用することを通して、よりリアルで、確かな子どもたちの理解を育むことができるということです。第二は、新聞記事を教材として扱うことを通して、子どもたちの読解力や表現力を育てるということです。第三は、新聞記事を読むことを通して、社会に対する興味・関心を引き出し、子どもたちの豊かな社会性を育成するということです。

このＮＩＥが持っている３つの教育的価値は、２００７年の学校教育法改正で示された学力の３要素、及び、今回の学習指導要領の改訂で提起された資質・能力の３つの柱である、①生きて働く知識・技能の習得、②思考力・判断力・表現力等の育成、③学びに向かう力、人間性等の涵養にそれぞれ対応しているということができるでしょう。

さて、この小論では、第三の社会に対する興味・関心を引き出し、豊かな社会性の育成することについてさらに述べていくことにしましょう。現代の子どもの特徴としては、社会や公共に関する事柄についての無関心の広がりが指摘されて来ました。それは、アトム化といわれるように、子どもたちの人間関係がばらばらに切り離され、希薄化しているとともに、私生活主義とミーイズムともいうべき傾向を強めているからでもあります。つまり、現代の子どもたちは、「パブリック（公共）」の世界から「プライベート（私）」の世界への撤退と引きこもりともいうべき状況のなかを生きているのです。

それに対して、新聞は「社会の公器」といわれるように、世界から地域社会に至るまで様々な社会の現実（一覧性）が記者の確かな目（信頼性）を通して切り取られ、論評と解説を加えて述べられています。（詳報性と解説性）これは、他のメディア（インターネットやテレビ等）と異なる新聞の大きな特徴になっています。そして、こうした特徴を持った新聞を教材に様々な学びを展開していくことによって、子どもたちは社会や「公共」についての知識・技能を獲得し、興味・関心を高め、社会や「公共」に主体的に関わっていく態度を身につけていくことができます。いわば、子どもたちを「社会へ開眼」させていくことにつながるのです。また、こうした学びを通して子どもたちを育てていくことは、最終的には、市民社会の「民度」を高め、言論を通した民主主義社会を発展させていくことにもなるのです。

ところで、新聞には世界や日本全体だけでなく、地元の和歌山県に関する事柄についても取り上げられています。こうした地元のローカルな事柄を世界や日本全体と関わらせながら学んでいくことによって、これからの和歌山県のことを自分事としてとらえ、和歌山県を担い、創り出していく子どもたち、さらには、その市民社会の担い手にふさわしい「市民性」を持った子どもたちを育成することができるのです。こうした角度からもＮＩＥの取り組みを進めていくことができればと願っています。

第9回

和歌山県小学校NIEセミナーに参加して

和歌山大学教育学部附属小学校　湯浅　明菜

「新しい学びをNIEで」をテーマに、第9回和歌山県小学校NIEセミナーが、7月26日、和歌山大学教育学部附属小学校にて行われ、盛会の内に幕を閉じました。会は、3つの柱で行われました。

まずは、和歌山県NIEアドバイザーである和歌山大学教育学部附属小学校矢出大介教諭による「NIEの楽しさと意義」。矢出教諭が数年に渡り附属小学校で続けてこられた、常時活動におけるNIE実践や、授業での新聞記事の活用、新聞形式での学習のまとめ等を続けることで、子どもにとって新聞が身近であるようにする取り組みが紹介されました。「誰でも取り組めるもの」としてのNIE実践であることが大切という思いが伝わってきました。

次に、福井市安居小学校加畑里奈教諭による「『親しむ・かかわり合う・つながる』NIE実践」の報告が行われました。加畑教諭からは、1～6年生の全学年での実践に加え、委員会やクラブ活動などでの取り組みについても報告されました。加畑教諭のご実践のみではなく、学校全体の取り組みの詳細が紹介されたことに驚きました。校内でNIE実践の中心を担っている加畑教諭ら数名が研修で得た情報を職員全体に紹介し、地道に校内でのNIE実践普及活動を行ってきた成果だそうです。実践報告を受け、学校全体として様々な実践を重ねることを通して、子どもたちが新聞を教材としながら世の中での出来事を学校生活の中につなげているところが優れていると感じました。

最後に、大阪市立開平小学校中島順子教諭による講演「NIEでアクティブ・ラーニング」。NIEでの新しい学びを探る一つの手立てとして、中島教諭ご自身も研修会で体験されたという「まわしよみ新聞」が紹介されました。ワークショップを行い、まさにアクティブ・ラーニングでNIE実践について研修を深めました。一人一部ずつ新聞を手にして読み、自分が気になった記事を3つ切り取り、グループ内で紹介。記事はグループで1枚の模造紙に貼り、コメントを書き込みました。同じ内容の記事を切り取っていても、人によって選んだ視点や記事に対する見方、考え方が異なっており、興味深く話を聞き合いました。最後に、出来上がった各グループの「まわしよみ新聞」をまわし読みしました。短時間で相当数の記事と、それに関する他者の考えに触れることができました。グループでの作成に当たって、自然と記事の内容やレイアウト等について対話が必然的に生まれるのも魅力的です。

これからの時代を生きる子どもたちには、物語などの連続型テキストに加え、新聞記事などの非連続型テキストを読む力が、これまで以上に求められます。また、主体的・対話的で深い学びを育むために、教科・領域等での横断的な学習展開の充実についても取り組みが進められているところです。NIEのもつ可能性の広がりを感じることができたセミナーでした。

教育に新聞を

和歌山県NIE（エヌ・アイ・イー）推進協議会
ホームページを開設しました

～和歌山県の新聞活用授業実践例を紹介したサイトです～

アドレス＝http://nie.kiiminpo.jp

第1回 和歌山県中高NIEセミナーに参加して

和歌山県立桐蔭中学校 教諭 山本 祐未

夏休みも終盤にさしかかった8月21日。和歌山県立星林高校で第1回和歌山県中高NIEセミナーが行われました。共同通信社和歌山支局長の名波正晴先生による「日本移民と戦争」、京都市立向日市立寺戸中学校の宮澤之祐教諭による「記事を書く、記事を読む」といったテーマでの実践報告を聞かせていただきました。

私は現在、和歌山県立桐蔭中学校で社会科の教諭をさせていただいています。インターネットやテレビなどのマスメディアが普及している今日において、なぜ今新聞なのか。セミナーに申し込む前の私は、あまり意義を感じることができずにいました。情報化社会と呼ばれる今日において、新聞以外にも探せばいくらでも情報は入ってきます。では、今なぜ新聞なのか。今回このセミナーに参加し、新聞に対してのイメージが変わったので、今回紹介したいと思います。

第1回 中高セミナーの様子

第2回 中高セミナーの様子

まず、名波先生からはブラジル移民の方々と戦争についてお話を伺いました。社会科の教科書には「笠戸丸」の話や日本町の話は出てきます。しかし、そこに移民として日本を離れられた方々のその後についてはあまり語られることはなく、今も4世や5世として活躍している日本にルーツを持つ人々が地球の反対側で生活しているのだ、という程度でしか私も授業で触れることはありませんでした。彼らはもちろん、第二次世界大戦も日本から遠く離れた地で経験してきましたし、彼らにも「歴史」はあります。名波先生の話によると、ブラジル日系社会では、終戦した当時「日本は戦争に勝った」と信じる者と、「日本は戦争に負けた」と認識している者に二極化していたそうです。この二つの認識の違いが、「サンパウロ事件」という同胞襲撃事件に発展してしまいます。名波先生は当時の実行犯の人々に、なぜそうした事件を引き起こしたのかについて、取材を行われたそうです。そんな話を聞いていると、授業で取り扱っているのは本当に一部の断片的な情報に過ぎず、こうした話も「取材」を通してでしか知り得ないことだということを痛感しました。

次に、宮澤先生の「記事を書く、記事を読む」では、宮澤先生の記者の時代の体験をもとに、授業での実践報告を踏まえたお話を伺いました。まず、衝撃を受けたのは新聞報道の変化についてでした。一つの新聞社を時代ごとに追っていっても、そのスタイルはこのようにも違うのか、と驚きました。また、一つ一つ取材をし、自分たちの好きなように記事を書けなかった戦時中は、どこの社の記事も似通っており、少し恐怖を感じました。地方記事の授業報告や「人」を扱った記事でのビブリオバトル形式でのアクティブラーニングなどはすぐにでも実践をしてみたい内容でした。

星林高校の修学旅行新聞 会場にて

「新聞を読む」という習慣は、近年の中学生の中で、どれほどの生徒に習慣づけられているでしょうか。新聞離れがすすむ今日において、まず、学校が正しい新聞の読み方を授業や学校生活において育てる。この努力が必要なのではないか、と今回のセミナーの中で自分の責任を感じました。新聞に触れた授業の実践を、自分と生徒にあったより良い方法で作り上げていこうと思います。このような貴重な機会をいただけたことに、感謝いたします。

第9回「いっしょに読もう！ 新聞コンクール」

全国奨励賞に
池田 壮汰さん（和大附属小6年）
田上 文菜さん（和歌山市立河北中2年）
太田 璃琉さん（那智勝浦町立下里中3年）

日本新聞協会は、このほど第9回「いっしょに読もう！新聞コンクール」の受賞者を発表しました。

全国から52，155編の応募があり、小・中・高校部門の最優秀賞を各1編（合計3編）、優秀賞を校種別に各10編（合計30編）、奨励賞を120編選んだと発表がありました。

また、団体応募420校の中から、優秀学校賞を小・中・高校各5校の合計15校、学校奨励賞145校が選定されています。

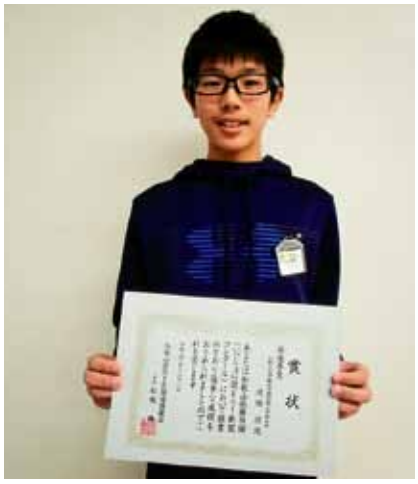
和歌山県内では、小学校から300編、中学校から265編、高等学校から2編、全体で567編の応募がありました。そのうち全国審査会で、奨励賞に和歌山大学教育学部附属小学校6年の池田壮汰さん、和歌山市立河北中学校2年の田上文菜さん、那智勝浦町立下里中学校3年の太田璃琉さんが選ばれました。学校奨励賞には和歌山市立四箇郷北小学校、和歌山市立砂山小学校、高野町立富貴中学校、海南市立東海南中学校、県立日高高等学校附属中学校、那智勝浦町立下里中学校が選ばれました。

同時に県審査会において、県優秀賞に19名、県奨励賞に36名を選定しました。県内の受賞状況は、和歌山県NIE推進協議会ホームページ（http://nie.kiiminpo.jp/）に掲載しています。

第10回「いっしょに読もう！新聞コンクール」はすでに募集が始まっており、応募の詳細は、NIEホームページ（https://nie.jp/）に掲載されています。多くの学校のご応募をお願いします。

太田 璃琉さん

田上 文菜さん


池田 壮汰さん

※写真掲載は保護者の了解を得ています

第10回 いっしょに読もう！ 新聞コンクール

日本新聞協会は、今年も「いっしょに読もう！新聞コンクール」を実施します。
家族や友人といっしょに記事を読み、感想・意見などを書いて、記事とともに応募いただく新聞感想文コンクールです。

1 新聞を読もう ▶ 2 記事を決めよう ▶ 3 記事を読んで考えたことを書こう ▶ 4 家族や友だちに意見を聞こう ▶ 5 まとめよう ▶ 6 応募しよう

●応募締め切り：2019年9月9日（月）必着

●対　　象：小・中・高校・高等専門学校生
●募集要項：2018年9月10日～2019年9月8日の新聞から興味を持った記事を切り抜き、
家族や友だちにも見せて意見を聞いたり話し合ったりしたうえで、応募用紙に記入して記事といっしょに送ってください。

主　　催：一般社団法人日本新聞協会　　コンクールの詳細（応募・問い合わせ先、対象紙一覧 など）▶NIEウェブサイト https://nie.jp